

風景／身体／語言之間

風景／身体／言葉のあいだ

Between Landscapes / Bodies / Languages

長野 櫻子

Sakurako Nagano (anno lab)

個展 Solo Exhibition



2026.8.28^{FRI} - 9.6^{SUN} EUREKA

開廊: 12:00-19:00 (金曜日のみ20:00まで) ※休廊: 8/31(月)

会場: EUREKA 福岡市中央区笹丘1-6-18 / Tel+Fax: 092-406-4555

主催: 風景／身体／言葉のあいだ実行委員会

助成: (公財)福岡市文化芸術振興財団「FFACステップアップ助成プログラム」

後援: 福岡アジア美術館、福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団、高雄市立美術館、

Pier-2 Art Center Artist In Residence、anno lab

エウレカ

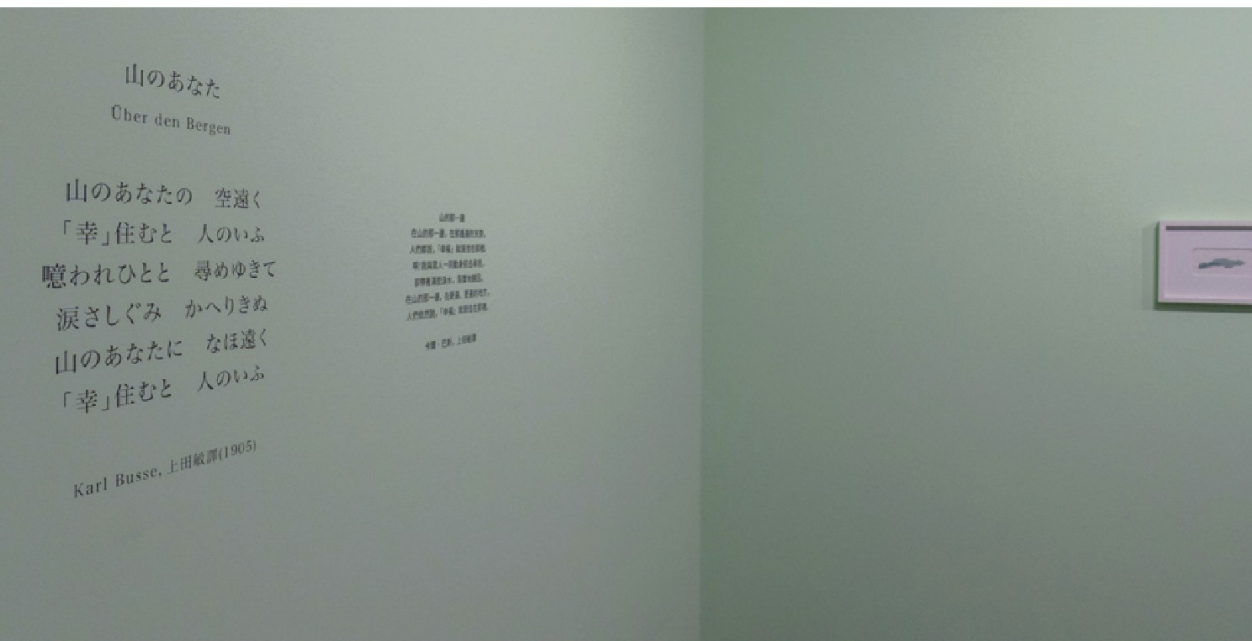
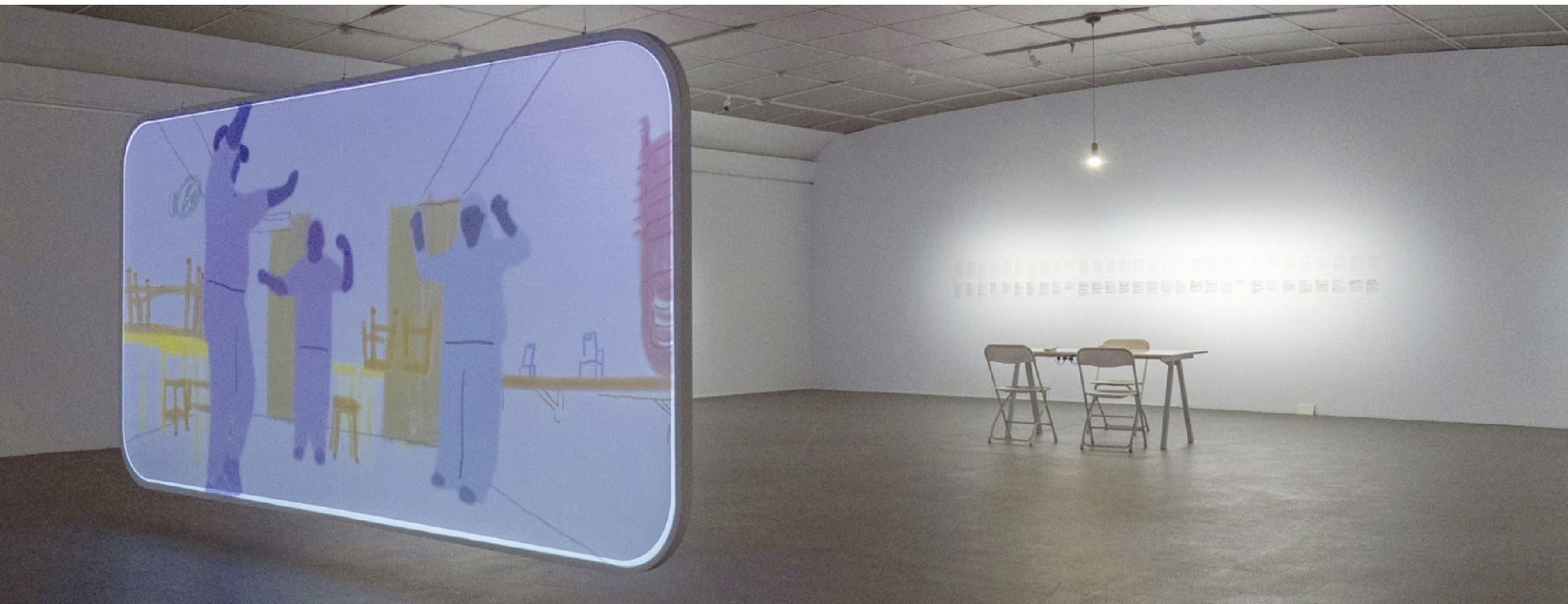
 福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

 PAIR
Pier-2 Artist In Residence

 高雄実験場
K SPACE

anno lab

 step up



『風景／身体／語言之間』at KSpace高雄實驗場／ Photo:Kaohsiung Museum of Fine Art

2026年2月から5月まで、台湾・高雄市の塩埕区でアーティスト・イン・レジデンスの作家として暮らした。街にはひらがなやカタカナがあふれ、それらは「かわいい」「品質が良く見える」と好意的に受け取られていた。日本語教育が行われた歴史とも結びつく文字が、いまは別の意味をまとして日常にある。そのことを嬉しく思いながら、同時に複雑さも感じた。高層ビルの隙間にスマートフォンをかざし、日本統治期に名を変えられた壽山を探した。水餃子店を営む双子の姉妹とは、共通言語がないまま翻訳アプリで問いを交わし、一か月間、日記を書き合った。歴史について考えることと、いま目の前にいる人を知ろうとすることは、私のなかで別々のものではなかった。過去を無視することも、そこに留まり続けることもできない。

「言語／風景／身体のあいだ」は、台湾で発表した作品に、帰国後に制作した新作を加えた六点で構成する。塩埕区で集めた文字、山を探した視線、姉妹と交わした言葉や身体の記録、そして日本に戻ってからあらためて見つめた風景を通して、複雑さに答えを出すのではなく、そのなかで他者と関わる方法を考える。



[Google maps](#)

会場: EUREKA エウレカ
〒810-0034
福岡市中央区筈丘1-6-18
Tel+Fax 092-406-4555

同時開催イベント

連携展示

『もうひとつの 風景／身体／言葉のあいだ』

会場: Art House 88

2026年 8/29日[土]ー9/6[日]

12:00ー19:00 ※休廊: 月、火、水曜日

アーティストトーク

会場: Art House 88

2026年 8/29 [土] 14:00ー15:00 (予定)



Art House 88
〒810-0044
福岡市中央区六本松1-8-5

[Google maps](#)

協力: 岩谷成晃(anno lab)、金スルギ(anno lab)、田中喜作(anno lab) グラフィックデザイン: 須藤史貴(anno lab)
アニメーション協力: 石川亜由美、伊藤拓胤、オオタソラ、土本亜祐美、部谷文香、藤本遼太郎、森田了、八尋千夏、ginji64g